

京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
京大1111C学内142号
新着・京都3800
（電話157）



資本の労働市場拡大 押えきれない若年層の流出

工場開発と労働力の確保

工場開発と労働力の確保は、現代社会の重要な課題の一つである。特に若年層の流出は、労働市場に深刻な影響を及ぼしている。本稿では、この問題の背景と対策について考察する。

組合の労働市場政策の欠如

労働組合は、労働者の権利を守るだけでなく、労働市場の政策にも関与するべきである。しかし、多くの組合は、労働市場の政策に欠如を認めていない。これは、労働者の利益を長期的に損なう可能性がある。

いわゆる「労働力の不足」

「労働力の不足」という言葉は、しばしば労働市場の現状を指すために用いられる。しかし、これは単に労働者の数が足りないというだけでなく、労働者の質やスキル不足も重要な要因である。

採入企画 本格的編集に着手

本誌は、採入企画を本格的に編集に着手した。これにより、読者のニーズに合わせた内容を提供できるようになる。今後の活動も引き続き注力していく。

新入生歓迎会プログラム

新入生歓迎準備委員会 (同学会・体育会・応援団・生協)	
【I】 サークル紹介 1時前開演	4/12(木) 4/22(木) 4/18(日) 4/20(火) 4/21(水)
【II】 開会式 1時開演	4/20(火) 4/21(水)
【III】 講演会 (1時開演)	4/23(金) 4/24(土) 4/28(月) 4/27(日) 4/28(火)
【IV】 音楽会 新入生歓迎会	4/23(金) 4/24(土)
【V】 写真展	4月下旬
【VI】 スポーツ大会	6月中
【VII】 閉会式 1時開演	4/17(土)

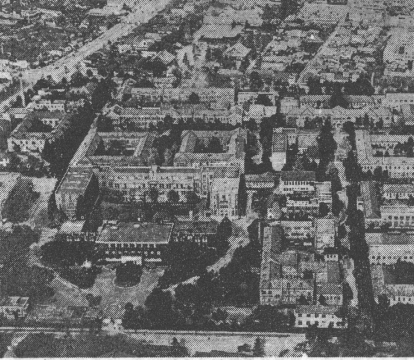
写真写真展など 新入生歓迎に多彩な計画

新入生歓迎会は、多彩な企画を準備している。写真展、講演会、音楽会など、新入生が大学生活を楽しく始めるための様々な機会を提供する。

大將軍

中華料理

TEL: 091-1011012



ご要望に応じて、12月に創刊！

京都大学卒業生人名録

B6判・700頁
予価 800円(送料130円)

就職先 / 卒業年度 / 学部 / 学科 / 出身高校 / 現住所

人名録は実務的な就職先別一覧の形をとり、今後隔年毎に続刊される予定ですが、今回の創刊版(昭和40年度版)におきましては全卒業生総数6万余名を集録し、官公庁、会社、各種団体の三篇から成るもので、今12月1日発行を目指して編集に着手いたしました。

京都大学卒業生名簿編纂委員会
京都市左京区吉田(京大構内)京大新聞社発行
電話(UT) 8111学内142号、掛京京都 8203 (申請中)

世界にひろがる 兼松 のエネルギー

■世界に雄飛する総合商社
兼松は社歴76年 繊維を主軸にした貿易商社からいまや、非繊維部門が60%を超える多角的な総合商社に発展、世界中に雄飛しています。国内17海外39の営業網をもつ兼松は 明日に向かって発展を続けます。

■若い目で世界を見てください
現在、兼松では158名の海外出張員が世界の各国で活躍しています。兼松はあなたの若さを求めています。あなたの新しいセンス——若さにみちたファイトで、世界の市場に飛躍してください。

兼松記念事業
兼松記念ビル
兼松記念ホール
兼松記念図書館

兼松株式会社

創業1889年(明治22年)
本部及び大阪支社 大阪市東区南久太郎町4丁目25(大和ビル)
東京支社 東京都千代田区丸の内1丁目6(海上ビル新館)
内地主要店 神戸・名古屋・札幌・福岡・那覇
取扱商品/羊毛・絹花・繊維会社・食糧・調味料・化粧品・書籍・木材・紙類・皮革・電子・輸送機器
海外支店/ニューヨーク・ロンドン・アムステルダム・パリ・ジュネーブ・ジュネーブ・ジュネーブ・ジュネーブ

大江健三郎の問題 (1)



大江健三郎の問題は、戦後日本文壇の最大の事件の一つである。その問題の核心は、作家の政治的・社会的責任と、文学の自律性との衝突にある。彼は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

停滞の表象と抗い

大江健三郎の作品は、戦後日本の社会状況を鋭く批判し、停滞の表象を露骨に描き出している。彼の筆は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。



証人となれなかった

証人となれなかった。時代は呑みこまれていく過程の機光。田中英光全集。田中英光は、戦後日本文壇の重要な作家として知られる。彼の作品は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

問題を抱括的に捉える

自己の状況の中から要素を考える視座。大学の。この視座から、大江健三郎の問題を捉えることができる。彼の作品は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

大江健三郎の問題は、戦後日本文壇の最大の事件の一つである。その問題の核心は、作家の政治的・社会的責任と、文学の自律性との衝突にある。彼は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

パセティックな体験に立脚

即物的な民主主義に異和感。田中英光全集。田中英光は、戦後日本文壇の重要な作家として知られる。彼の作品は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

マックス・ウーバー

「ラッセルは語る」

ラッセルの思想を、ウーバーが語る。その内容は、戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

解放戦線

戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

デスク日記

戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

歴史における科学

戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

現代日本小史

戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。

みすず書房

戦後の混乱期に、従来の文学規範を打破し、強烈な社会批判と自己の内省を併せ持つ作品を発表した。このため、彼は既成の文学界から排斥され、また一般読者からも理解されなかった。彼の作品は、単なる文学的表現を超え、社会の矛盾を鋭く抉り出し、読者に深い反省を促した。この意味で、大江健三郎の問題は、戦後日本の文化史において重要な位置を占めている。